

業界に関する機関・組織・制度

	項 目	主 な 内 容
(1)	ICAO	概要、歴史、目的、組織
(2)	IATA	概要、歴史と組織、目的、貨物関係の活動、IATA/FIATA協議
(3)	FIATA	概要、歴史と組織、目的
(4)	国土交通省	航空局の概要、職務、組織 利用運送事業の窓口
(5)	JAFPA	概要、目的、活動
(6)	IATA貨物 代理店制度	制度の概要、IATA貨物代理店になるには
		IATA貨物代理店の権利と義務
		貨物代理店の業務、 貨物代理店のサービス機能
(7)	混載業者	混載貨物の流れ、 混載業者の業務
(8)	運送にかかる責任	航空会社の責任限度額 荷送人・航空貨物代理店・運送人の責任



ICAO

International Civil Aviation Organization

1. 概要

Introduction

国際民間航空機関、国連の専門機関の一つ、加盟 約190ヶ国、
モントリオールに本部

2. 歴史

History

国際民間航空条約(シカゴ条約 1944年)に基づき1947年に設立
日本は1953年にシカゴ条約を批准し、ICAOに加盟

3. 目的

Objectives

加盟国間の協力を通じて、国際民間航空の安全確保と持続可能な発展を図ること
Strategic Objectives 2011-2012-2013:

- A. Safety - Enhance global civil aviation safety 安全運航のための施策
- B. Security - Enhance global civil aviation security 保安確保のためのルール作り
- C. Environmental Protection and Sustainable Development of Air Transport
環境保護と航空輸送の持続可能な発展

4. 活動

Activities

国際航空運送業務やハイジャック対策のための条約の作成

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/icao/jyoyaku.html>)

国際航空運送に関する国際基準、勧告、ガイドラインの作成

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/icao/kankoku.html>)

5. 組織

Organization

(http://www.icao.int/Documents/structure_en.pdf#search='icao+structure+of+secretariat')

出所: IATA Manual, ICAO H/P: <http://www.icao.int/>



IATA

International Air Transport Association

1. 概要

Introduction

国際航空運送協会、 航空会社が参加する協会、 航空会社240社(118カ国)が参加
 モントリオールおよびジュネーブに本部

2. 歴史と組織

History and Organization

1945年、キューバのハバナに設立、 欧米航空会社57社(21カ国)でスタート
 安全・技術面の取組みからスタート ⇒ 標準化(インターライン輸送) ⇒ 運賃設定
[組織図](https://www.iata.org/about/Documents/iata-organizational-structure.pdf#search=%27iata+organization+chart%27) (https://www.iata.org/about/Documents/iata-organizational-structure.pdf#search=%27iata+organization+chart%27)

3. 目的

Objectives

航空会社が協力して、世界の利用者の利便性向上のために、安全、確実、経済的な
 航空輸送サービスの発展を図ること

4. 貨物関係の活動

Cargo related Activities

標準化の促進、 IATA代理店制度の運用
 CASS(Cargo Accounts Settlement Systems, 貨物運賃精算システム)の運用
 貨物関係の制度の標準化、 IT化の促進(e-freight, CARGO2000)

5. IATA/FIATA協議

IATA/FIATA Dialogue

代理店制度、運送制度等に関し、IATAとFIATA間で協議



FIATA

International Federation of Freight Forwarders Associations

1. 概要

Introduction

世界の各国フォワーダー協会の連合会(民間組織)
 世界150カ国、4万社のフォワーダーを代表
 チューリッヒに本部
 国連の商務関係組織の協議相手の一つ

2. 歴史と組織

History and Organization

1926年ウィーンに設立
 3つのInstitute(研究会)を設けて活動

- Air Freight Institute
- Customs Affairs Institute
- Multimodal Transport Institute

Instituteの他にAdvisory Bodies, Working Groupsを設けて活動

3. 目的

Objectives

世界のフォワーダー業界の発展

国土交通省 航空局

Civil Aviation Bureau, MLIT

1. 概要

Introduction

国土交通省の内部部局の一つ
航空行政を担当

2. 職務

Responsibilities of National Aviation Authorities

航空機の登録、
航空会社の監督
空港の整備
航空安全の確保
航空管制

3. 組織

Organization

<http://www.mlit.go.jp/common/001181664.pdf>

(注)貨物利用運送事業の窓口 : 総合政策局物流政策課

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Organization?class=1050&objcd=100155&dispgrp=0090>

国土交通省航空局 H/P : <http://www.mlit.go.jp/koku/index.html>

JAF A (航空貨物運送協会)

Japan Air cargo Forwarders Association

1. 概要

Introduction

日本の航空貨物利用運送事業者、および、それに関連する事業者の集まり(社団法人)
会員数(平成26年11月現在)：正会員 130社 準会員 20社 賛助会員 15社

2. 目的

Objectives

利用運送事業者が現在直面し、業界全体として解決を迫られている課題に適切に対処し、
業界の健全な発展を図ること

3. 活動

Activities

- 国際航空貨物に係る諸問題、国際組織との交流、教育訓練等についての検討、対策の実施
- 国内航空貨物に係る諸問題、教育訓練等についての検討、対策の実施
- 国際宅配便に係る諸問題、教育訓練等についての検討、対策の実施
- 通関に係る諸問題、AIR-NACCSへの対応等についての検討、対策の実施
- FIATA(国際貨物輸送業者協会連合会)の正会員として航空貨物委員会に参加
- IATAディプロマ試験の実施
- コンプライアンス徹底のため、研究会の開催を含め必要な措置を講じること



IATA貨物代理店

The IATA Cargo Agent

1. 概要

Introduction

IATA航空会社の代理店、 航空貨物の利用を促進

2. IATA貨物代理店になるには

How to become an IATA Cargo Agent

IATA事務所(日本ではIATA Singapore Office)に申請

航空貨物のマーケティング、貨物の安全な取扱い、関係書類作成等の業務を実施できる能力(人的・施設の・財務的)等について審査される。

3. IATA貨物代理店の権利と義務

Rights and Obligations of an IATA Cargo Agent

- 航空会社からAWBを受取り、運賃精算の支払いにかかるクレジットを得られる。
- 輸出貨物について、航空会社からコミッションを得られる。
- 貨物を“Ready for carriage”にして航空会社に渡す。
- 運賃精算を遅延することなく行う。

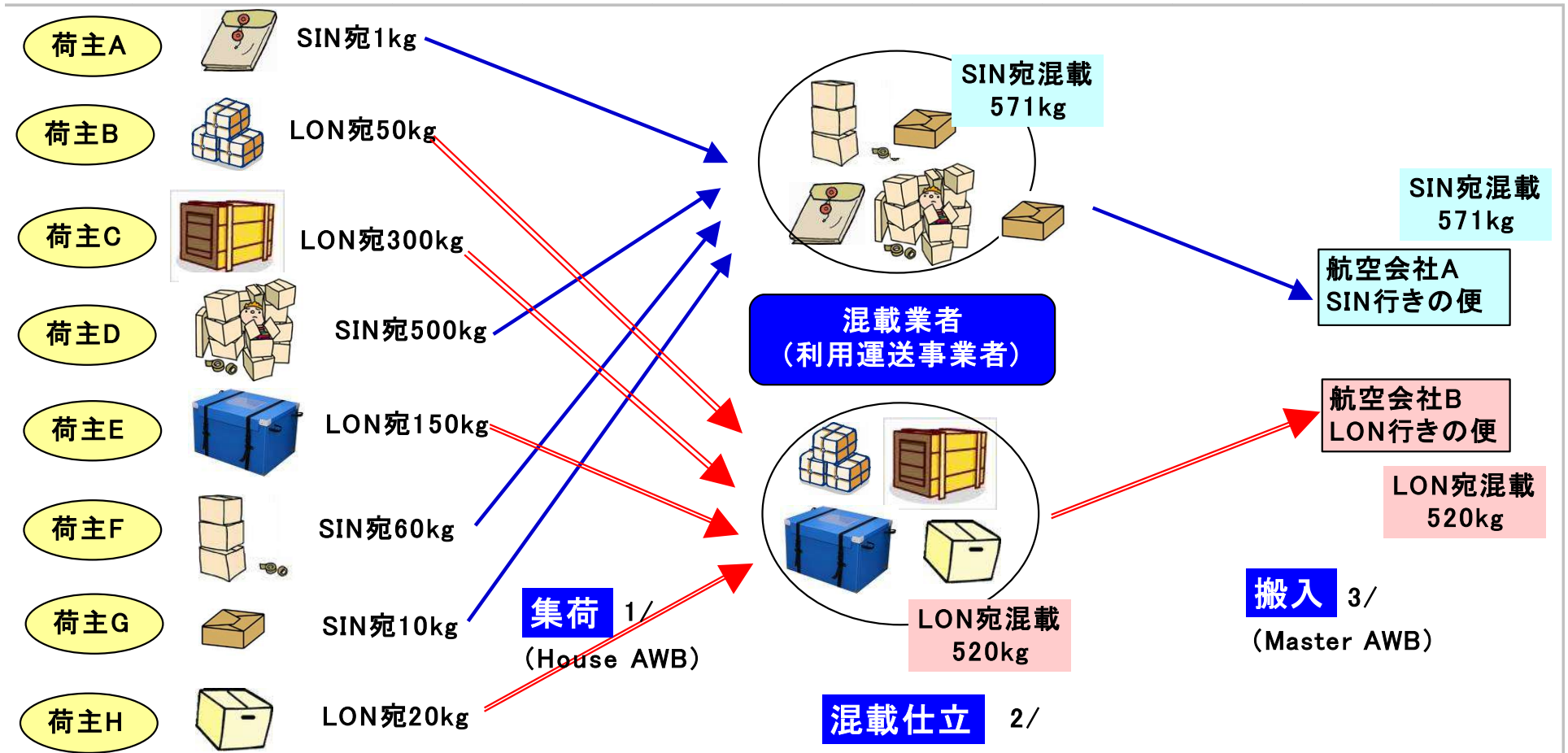
4. 航空会社とIATA貨物代理店の関係

Relations between IATA Cargo Agent and the Airlines

ビジネス・パートナーの関係

混載業者(1) 集荷から搬入まで

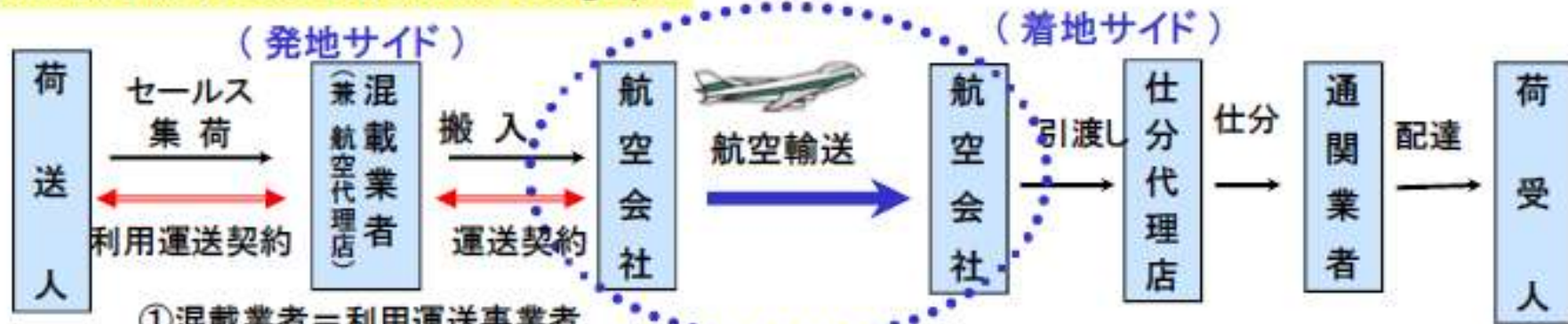
The Consolidator(Air Freight Forwarder)



- (注) 1/混載業者は荷主と利用運送契約を結び、貨物を集荷する。航空会社運賃より安い混載運賃が適用される。
 2/混載業者は集荷してきた貨物を宛地別に仕分けて、一括して出荷できるように準備する。
 3/混載業者は宛地毎にまとめた貨物を一括して航空会社に搬入する。混載業者は、貨物を集めて大口貨物とすることにより、より安い航空会社運賃を利用できる。

混載業者(2) 発地から着地まで

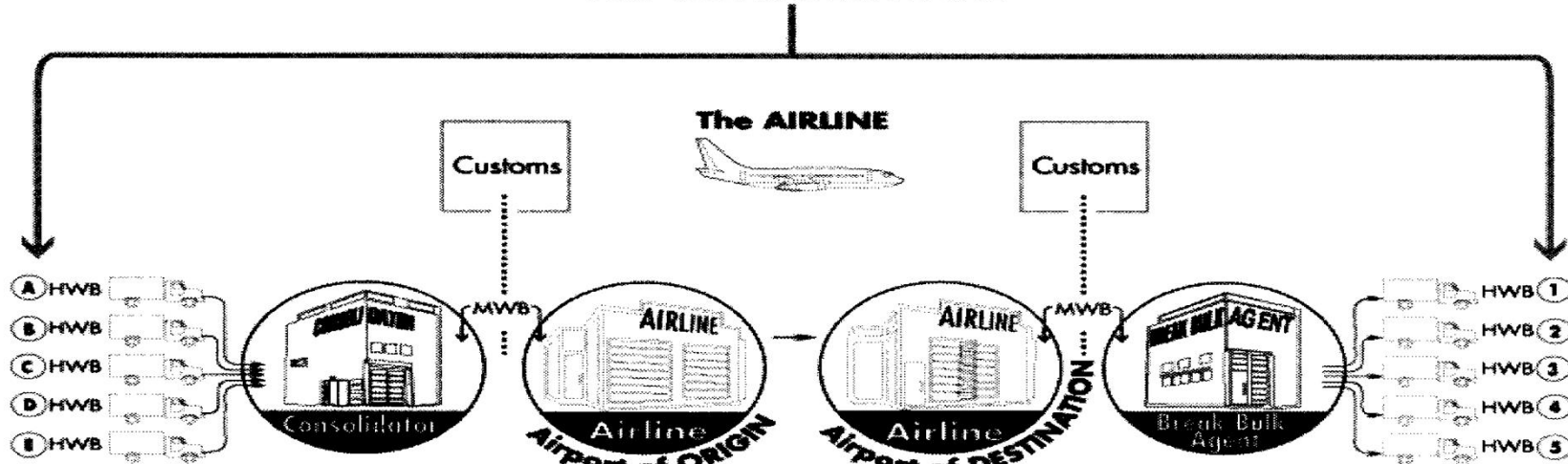
【混載貨物(Consolidation Cargo)】



- ①混載業者＝利用運送事業者
→ 飛行機を持たない運送人、ハウスAWBで荷送人と運送契約
- ②混載業者は航空会社と運送契約(荷送人vs運送人)
- ③混載業者は航空代理店としての資格を持ち、AWB発行

Scope of the Consolidator's Activities

The CONSOLIDATOR



出所: IATA Manual

Exercise 2

貨物代理店の業務(1)

Operations

1. 運送サービスの販売 Selling transportation

航空貨物輸送の利用を促進

2. 運送のための貨物準備 Preparing shipments for transportation

貨物を“Ready for Carriage”(航空輸送可能の状態)にする。

“Ready for Carriage”とは :

- a. AWBの発行
- b. 必要書類の作成
- c. 梱包へのマーキング(荷受人名、住所等)
- d. 航空輸送に耐える梱包
- e. 梱包への運送ラベル貼付
- f. 危険物・動物などの荷主による証明書

貨物代理店の業務(2)

3. 書類作成 Documentation

AWB以外の主な書類 :

- ① Shipper's Letter of Instructions
- ② Commercial Invoices
- ③ Documents required due to the nature of the goods
 - Shipper's Declaration for Dangerous Goods
 - Shipper's Certification for Live Animals

4. 通関 Customs brokerage

5. 保税 Cargo in bond

6. トラック輸送 Trucking

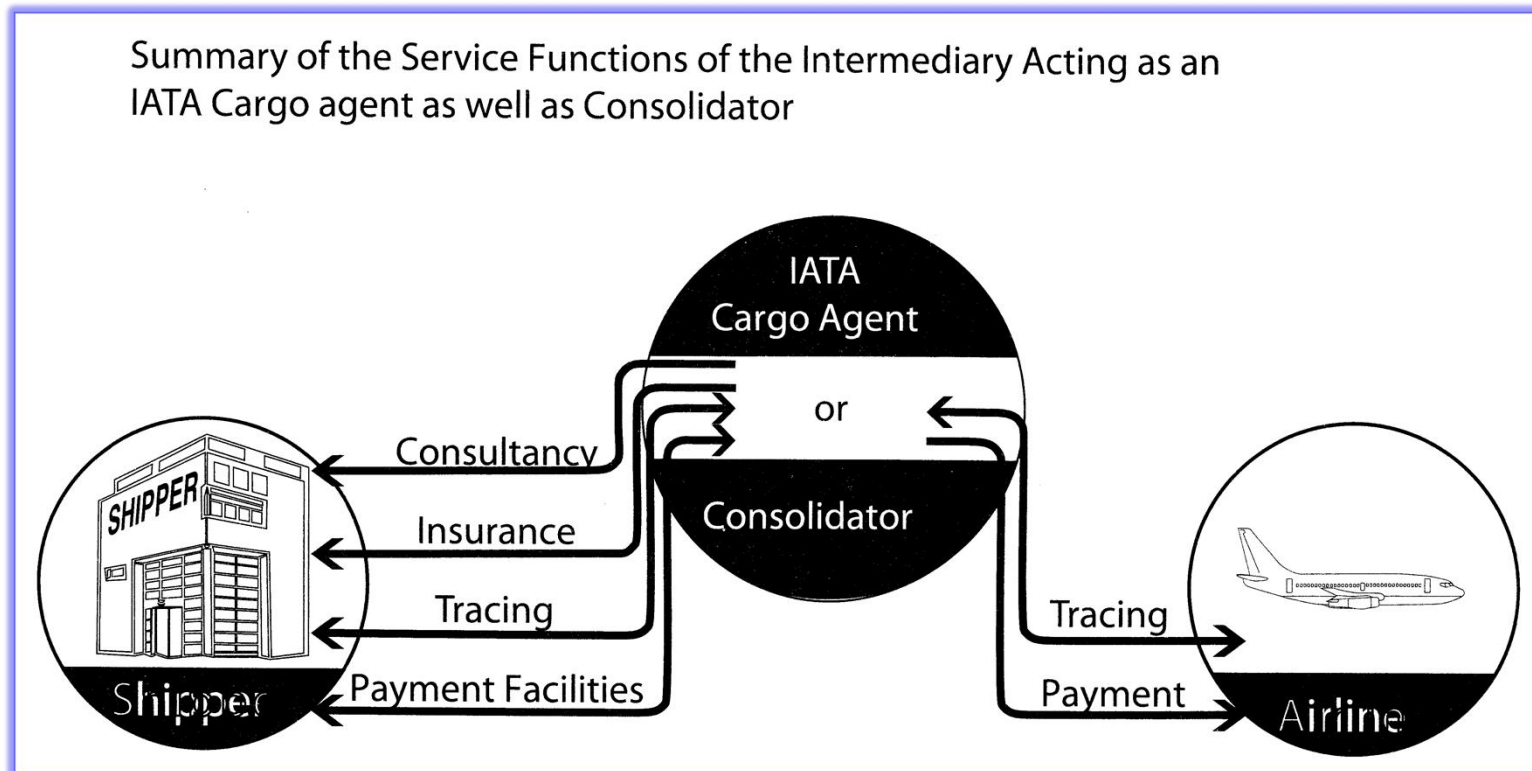
貨物代理店の業務(3)

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| 7. 梱包 | Packing |
| 8. 貸切運送 | Charters |
| 9. 配送 | Distribution |
| 10. 複合輸送 | Combined Transport |
| 11. エクスプレス | Express service – courier service |

貨物代理店のサービス機能

Service Functions

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. ロジスティクス・コンサルタント | Logistics Consultancy |
| 2. 運輸保険 | Insurance |
| 3. 貿易決済の支援 | Payment facilities |
| 4. 貨物位置情報の提供 | Tracking and Tracing |



運送にかかる責任

Carrier's Liability

- 1. 航空会社の責任** **Carrier's Liability**
19SDR/kg ⇒ 約3,000円/kg (1SDR ≒ 1.42US\$, 1US\$ ≒ 111円より計算)
- 2. 荷送人、代理人、運送人の責任** **Responsibility**
運送契約に定められた義務を果たす責任がある。
- 3. 書類の安全な管理** **Safe keeping of Documents**
代理店・フォワーダーは有価証券を含む多くの運送・貿易関係書類を取扱うが、書類の安全な管理は必須である。
- 4. 貨物の安全の確保** **Physical Safety of Goods**
代理店・フォワーダーは荷送人から多様な貨物の輸送を引受けるが、貨物が盗難にあったり、破損したりしないように、万全の注意が必要である。
- 5. IATA貨物代理店・混載業者の責任** **IATA Cargo Agent's/Consolidator's Liability**
代理店・フォワーダーは高額の物品の取扱いを行うので、リスクをカバーする保険を掛けることが望ましい。
- 6. 損害賠償** **Claims**
航空会社に損害賠償を行う場合には、書面をもって、期限内に行わなければならない。